

殆ス故ニ此谿谷ニ就キ稍精細ナル検査ヲ施スコト
 復タ歎ケ可ラザルノ要歎トス。是ヲ以テ附録(第一)ニ左
 側谿谷逐一ノ状ヲ説明ス

右側支川ノ事

イマ川、イマ川ハ銅山川ニ重テ着大ナル支川ナリ直行シテ劍
 山ヨリ流レテ末ル其長二十里アリト云ヘリ。此川ノ一支ヲ
 拾尾川ト号ケ烏帽子山ヨリ出ツ。イマ川ハ飛流急湍ヲナ
 シ終ニ吉野川ニ入ル其濠又スル所ハ川口村ヨリ一里許ノ下
 流ニ於テス。濠口ニハ燧石岩片ヲ混スル礫質ノ大礫洲アリ
 譬ヒ竹木山地ニ繁茂スルト虽猶自然ノ浸蝕欠崩並ニ切一畑
 耕作ニ由テ以テ障碍トナルベキ物質多少ヲ流送ス
 漆谷シツ谷ハ池田村ノ上ニ在リ長一里アリ清水ヲ流出ス
 ハチッ谷及ヒ中村谷、此両谷ハ池田村ノ下ニ在リ清澄ナル溪
 水ヲ流出ス
 井ノ内谷、井ノ内谷ハ龍宮ニ相對シ井ノ内山ヨリ流レ出ツ
 而シテ長三里アリ。其水清クシテ且早天ニ毛猶一秒間ノ流

<p>胚分。ははまる。 要項。</p>	<p>イマ川ニ註山谷 亞ラリ次に</p>	<p>飛流急湍。非常に急な事 台流の意 濠口。大礫洲の事 大礫洲。草木の古宇 草と木と</p>	<p>切一畑耕作 山を焼きはらって耕作する こと</p>	<p>龍宮 みでりの時</p>
----------------------------------	-----------------------------------	---	--	------------------------------

著しい被害を吉野川に発生させる原因は主として、この溪谷群より
 はじまる。それ故に、この溪谷について詳細な調査をすることは、欠
 かすことの出来ない要点である。そのために、附録第一には左岸の溪
 谷について詳しい説明をした。

一 右側支川のこと

【祖谷川】祖谷川は、銅山川に次ぐ大きな支流である。直流して劍山
 より流れ出る。その長さは二〇里あるという。この川の一支流を松尾川と呼び、烏
 帽子山から流れ出す。祖谷川は非常な急流で吉野川に流れ込む。その合流点は川口
 村(山城町川口)より一里ばかり下流である。合流点には燧石岩片の混じった礫質
 の大礫洲がある。たとえ草木繁茂の山地であっても、自然の浸食崩壊、及び切畑(焼
 畑)耕作によって、(河川の)障害となるべき物質を多少流し込んでいく。

【漆谷(漆川)】漆谷は池田村(池田町池田)の上流にあり、長さ一里
 で清水を流出している。

【ハチウ谷及び中村谷】ハチウ谷、中村谷の両谷は池田村の下流にあり、
 清澄な谷水を流出している。

【井ノ内谷(井ノ内谷川)】井ノ内谷は龍宮に向かい合っている。井ノ内山より流
 れ出し、長さ三里である。その水は清流で、干ばつにも、なお一秒間に一〇立方尺
 前後の水量を絶やさない。

※1 燧石
 石英片岩又は石英脈の礫か

※2 ハチウ谷
 池田町蓮華寺の東の谷

※3 龍宮
 三好町美濃田の湖の左岸の辺り

量十立方尺内外ノ水ヲ絶タズ
深谷及金川谷両ナカラ加茂野山ヨリ出テ短キ溪流ヲナス水
皆清澈ナリ

加茂野山谷 加茂野山谷ハ長三里アリ烏帽子山及ヒ西野山
下部ノ水皆之ニ流ス。山地草木ノ生育較佳ナリ。

流線ノ下方礫確ノ乾床幅二十間ノ所アリ夫ヨリ稍上流ニ於
テ水ヲ引去シ以テ三個村ノ田圃灌漑ノ用ニ供セリ。

山口谷、中ノ庄村ニ在リ其長二里アリ、中ノ庄山ヨリ出ツ
此溪流ハ砂礫ニ成レル川床、幅十間乃至十五間ニシテ平常

乾涸ナル者ヲ有ス。濠口ハ左側川内谷ヨリ流送セラレテ吉
野本川内ニ堆積スル所ノ石質洲渚ニ相對ス

毛田谷、毛田谷ハ同名ノ村内ニ在リ長二里ノ小溪流ナリ
其狭ナル川床ハ深ク断岸ノ下ニ通シ常ニ其中ニ流水ヲ絶

タズ。其水源タル毛田山ハ草木繁茂シテ甚タ佳美ナリ
半田川、半田川ハ同名ノ村内ニ流ル長三里半アリ烏帽子山

及奥山ニ其源ヲ発ス。急峻ナル半田川ハ其下流ニ於テ幅凡
ソ十五間余ノ床地ヲ有シ而シテ凹凸起伏スル廣野ノ地面ヲ
排削シ深断岸ハ十間乃至十五間ノ下ニ通ス。

堰任ナリ、やよろしい

礫確・石のまじやせ地

乾涸・かわいたところ

石質洲渚

石の多いすのぼさ

【深谷及び金川谷】深谷と金川谷は、両方とも加茂野山（三加茂町
加茂南方の山）より、流れ出て短い溪流を形成している。水はすべ
て清澈である。

【加茂野山谷（加茂谷川）】加茂野山谷は、長さ三里あって烏帽子山と西
野山下部の水はすべてこの谷に流れる。山地の草木の生育はほどほどに良
い。流れの下方に石の多いやせ地で幅二〇間の水のない河床がある。その
少し上流から水を引き、三か村の田圃に灌漑用水を供している。

【山口谷（山口谷川）】中ノ庄村（三加茂町中庄）にある。その長
さは二里である。中ノ庄山より流れ出る。この溪流は、砂礫になっ
た河床が幅一〇間ないし一五間あって、平常は涸れている。合流地
点は左側（北）の川内谷（三野町河内谷川）より押し流されて吉野
川本流中に堆積した礫質の洲渚に向き合った所である。

【毛田谷】毛田谷は、同じ名の村（三加茂町毛田）にあって、長さ二
里の小溪流である。その狭い河床は深く、崖の下を流れて水は絶える
ことがない。その水源でもある毛田山は草木が繁茂して甚だ美しい。

【半田川】半田川は、同じ名の村（半田町）にあって、その長さは三
里半である。烏帽子山と奥山にその源を発する。急峻な半田川は、そ
の下流において幅約一五間余りの河床を有する。そうして凹凸のある
平地を押し開き、また一〇間から一五間の深い断崖の下を流れる。

※1 烏帽子山
現烏帽子山ではない

※2 一間
約一・八メートル

※3 毛田谷
現在の猪ノ谷川

※4 烏帽子山
白滝山周辺の山。

霽濕ノ季ハ流勢頗熾ナリ旱魃ノ時モ猶之ニ流水ヲ餘セリ。
水源ノ諸山ハ草木盛ニ繁生ス

貞光川・貞光川ハ同名ノ村ニ在リ長十里アリ小劔山及一字
山ヨリ出ツ。又之ニ會スル所ノ左側ノ一大支川ハ烏帽子山
ヨリ出ツ。下流ノ十八町間ハ平地ヲ流通シ川床ノ廣六十間
アリ砂礫ニ成レリ。山地ニ草木ノ繁茂已ニ較可ナリト虽モ
自然ノ浸蝕欠陥アリ障碍ヲ曠スベキ物質多少ヲ流ス。此方
角ニ於テモ亦高峻ニシテ且傾斜スル山辺ニ就キ施スニ切一
畑耕作ヲ以テス。流床頗廣シト虽モ旱季ハ僅ニ廣ニ三間ノ
流水ヲ餘セリ

太田谷 太田谷ハ同名ノ村内ニ在リ長僅ニ十七丁アリ之亦
幾許カノ石礫ヲ流出ス

穴吹川 穴吹川ハ岩津村ヨリ上流穴吹村ニ在リ。此川ハ諸
支川中最美トスル一ナリ長九里アリ貞光川ニ之ヲ比スルモ
尚一段緩流ヲナス。最下流一里ノ間川床ノ廣五十間アリ平
地ヨリ低キゴト大低ニ同ナリ。此邊ハ時々舟楫ノ往來ニ適
スルコトアリ。天時ニ早リスト虽多量ノ水ヲ之ニ保テリ故
ニ銅山川及「イマ」川ト一般ニ之ヲ渡ルニ必ス船ヲ用ユ。

チンシツ。うるほす
流勢頗熾。流の勢が猛烈に早い

較可ナリ。やや宜しい。

頭斜。傾斜
旱季。みでりの季節

雨季には水流は激しく、干ばつ時にもなお水は絶えない。水源とな
る諸山には草木が繁茂している。

【貞光川】貞光川は同じ名の村（貞光町）にあって、長さは一〇里小
劔山と一字山から流れ出す。これに合流する左側の一大支流は烏帽子山か
ら流れてくる。下流の一八町の間は平地を流れ、河床の広さは六〇間もあ
り砂礫地になっている。山地には草木の繁茂は比較的が多いとはいえ、自
然の浸蝕崩壊があり、（川の）障害となるような物質（土砂）を多少は流
し出す。この方面においても高峻にして傾斜のきつい山地において切畑
（焼畑）耕作を行っている。河床は大変広いが旱季にはわずかに幅二〜三
間の流水があるだけである。

【太田谷（太田川）】太田谷は同名の村（貞光町太田）にあって、長さは
わずかに一七町である。ここもまたいくらかの砂礫を流出させている。

【穴吹川】穴吹川は岩津村（阿波町岩津）より上流の穴吹村（穴吹
町穴吹）にある。この川は吉野川の諸支流の中で最も美しい川の一
つである。長さは九里ある。貞光川に比べても、なお一段と緩やか
である。最下流一里の間は、河床の広さ五〇間あり、平地より大体
二間ほど低い所を流れている。この辺は舟の往來に適する。日照り
続きといっても多量の水を保っている。このため銅山川・祖谷川と
ともにこの川を渡るときは必ず舟を用いる。

※1 小劔山
丸笹山か

※2 一字山
一字村西南の山地の総称

※3 烏帽子山
矢筈山か

※4 一町
約一〇メートル

穴吹川最上流ニ入ル所ノ一支川ハ劔山ヨリ出テ、夫ヨリ下流ニ於テ右側ヨリ投スルモノハカキウチ山・中津山カウツ山ニ其水源ヲ發シ又左側ヨリ来ルモノハ半平山及禿山ヨリ出ツ沿川ノ地方ニハ鬱々トシテ佳美ナル山林モ尙々看ル所ニシテ總シテ柞木ノ生育頗ル盛ナルヲ視ル

螢川、螢川ハ岩津村ノ下方ニ於テ吉野本流ニ入ル川田カキウチノ峯田榎野ノ諸山ヨリ出テ来ル。主トスル流線長凡ソ四里アリ兩側ニ數多ノ支流ヲ有ス。草木ハ水源ノ地ニ盛ニ繁茂スルノ故ニ由リ川中常ニ流水ヲ絶タズ。

流地落差ノ大ナルヲ以テ繁雨ノ季ニ流勢最猛烈ニシテ半田川ノ激流モ猶一步ヲ讓ツルカ如シ。山地ニ雷雨アレバ所々自然ニ欠崩スルカ爲ニ多量物質ノ漂流アリ螢川ヨリ下流ニ至レハ長六里ニ亘レル高山脈アリ是レ鮎喰川ノ巖地ト吉野幹流沿川ノ低地トヲ分劃スル所ノ者ナリ。此山向ヨリ流出スル些少ノ溪水ハ概シテ山下ノ平地ニ吸收セラル、者ナリト蛭尾次ニ説クントスル所、一川ハ其例ニ非ラス

イノ川、イノ山ヨリ出ツル一小川トスルイノ川ハ第十村ヨリ下方ニ於テ別宮川ニ入ル。全川水質過半ノ看ハ平地ヨ

鬱々。樹木のしげるさま。

穴吹川最上流に流入する一支流は劔山より流れて、それより下流において右岸より流れ込むのはカキウチ山・中津山・カウツ山（高越山）にその水源を発する。また左側より流れ来るのは、半平山・梶山より流れ出す。川の周辺の地は樹木がよく茂り美しい山林も見ることができ、草木の生育もすこぶる盛んである。

【螢川（川田川）】螢川は岩津村の下流において吉野川本流に流入する。川田・高越・峰田・種野諸山から流れ出す。主とする流れの長さはおよそ四里である。両側に数多くの支流を持つ。草木は水源の地には盛に繁茂しているので川中の流れは常に絶えない。

流れの落差は大きいので、多雨の季節には流勢は猛烈であって、半田川の急流もこの川には一步を譲っているようである。（源流の）山地の雷雨により、所どころ自然に崩壊するために、多量の土砂が流出する。螢川の下流あたりから長さ六里にわたる高い山脈が東に延びている。

これは鮎喰川の溪谷と吉野川本流沿いの低地等を分ける山脈であり、この山間から流れ出すわずかな谷水はおおむね山の下の平地に浸透するが、次に説明する一つの川だけは例外である。

【イノ川（飯尾川）】飯尾山より流れ出る一小川である。飯尾川は第十村（石井町第十）より下流において別宮川に合流する。この川の水の過半は（流域の）平地において灌漑をしてきた排水からなっている。

※1 中津山高城山か

※2 半平山誤記で半平山は右岸に属する。

※3 螢川現在のほたる川は旧川田川の河道である。

※4 飯尾山飯尾川源流（鴨島町）の山

八幡山ノ右側ニ向ヒテ河開スル所ノ河道アリ八幡川ノ峯内ニ通ス
 鮎喰川ハ魁ヶ寄ニ開ケル一口ノ外他ニ又一口ヲ十丁若リハ十一丁上流ニ有シ以テ別宮川ニ通ス此一口ハ多年以前其一方ニ水ノ決潰セシニ創開セリ而シテ今ハ此川（鮎喰）ニ傍游大水ヲ下スノ時夕夕之ヨリ幾分ヲ洩スノミ・本年六月下旬ノ如ク別宮川ノ水ノミ高キ凡ハ右両川口ノ何レヨリモ鮎喰ノ水ヲ泄スナシ其水ハ更ニ路ヲ徳島市街ニ取リ田宮津田ノ二川ヲ傳フテ海ニ疏リ（畧図ヲ着ラルヘシ）

トウタイ
 河開スル 山の間
 ひらいている

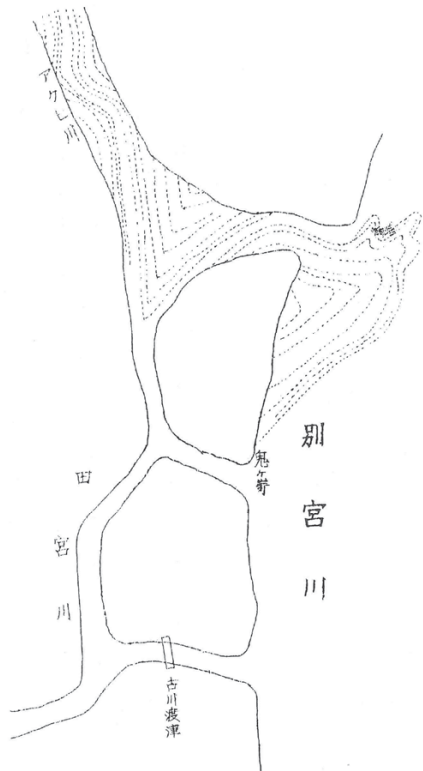
ソウタイ
 創開
 はじめてひらいた。
 水が盛んに流れること

八幡山（眉山）の右側に向かって切り開いた間道（抜け道）があり、（鮎喰川方向から）八幡川（園瀬川）の谷間に通じている。鮎喰川は、鬼ヶ崎に合流する出口の外に、もう一つの出口が一〇町か一一町（別宮川の上流）にあって別宮川に合流している。この合流点は、かなり以前に大水によって決壊して開いたものである。今この出口は大水の時に少し流れるだけである。今年（明治十七年）六月下旬のように、別宮川の水位だけが高い時は、両川口から鮎喰川の水を排水することはできず、その水は更に徳島市街を通り田宮川、津田川（新町川）の両河川を経て海に流れ出る。（略図参照）

※1間道
 地藏越えか

鮎喰川より下流の平地には、城山の上流より津田川に流入する二川がある。八幡山（眉山）の北斜面にしたたる雨水は集まって、この川の一つに注いでいる。

さらにまた徳島の南には、八幡（園瀬）、タダラ（多々羅）、桂（勝浦）の三川がある。この三川は皆その水源が吉野川流域の外にあるが、津田の地において吉野川の河口洲嶼の間に合流して互いに通じ合っている。



鮎喰川ヨリ下方ニ於ケルノ平地ニハ城山ノ上方ヨリ津田川ニ投スル所ノ二川アリ。八幡山ノ北面斜阪ニ淋漓スル雨水ハ集リテ此ニ川ノ一ニ灌ク

更ニ又徳島ノ南ニ方リ八幡、タダラ桂ノ三川アリ三川皆其水源ヲ吉野川流域ノ外ニ有スト豈津田ノ地ニテ各々吉野川

淋漓。したたる様子

